乙貞（おとさだ）

第２３０号　通巻40巻第３号
令和２（2020）年８月１日発行

守山市立埋蔵文化財センター
〒５２４－０２１２　守山市服部町2250番地
TEL&Fax　０７７（５８５）４３９７
Mail　maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

例年、夏の土用入り時分には梅雨が明けて、うだるような暑い夏日を迎えるのですが、今年は梅雨と猛暑がオーバーラップしたような日々が続いています。まさに亜熱帯化する日本列島との形容そのものですが、そのような中、発掘調査は営々と行われていますし、歴史入門講座も開講しました。

それでは、遺跡発掘調査の状況やセンター事業の開催結果など、前号発行以降の動きをお伝えしていきます。

発掘調査だより

焔魔堂城遺跡第6次調査

前号に引き続き、宅地造成工事に先立ち実施した焔魔堂城遺跡第6次調査の調査成果をお知らせいたします。調査は焔魔堂町字西浦において５月１１日から6月19日まで実施しました。

造成地内の道路建設箇所のうち、試掘調査で遺構が確認された約350㎡が今回の発掘調査の対象地で、右図の通り調査区1・2から土坑13基（SK-１～13）と溝1条（SD-1）古墳の周濠（SX-１）と多数のピットを検出しました。

このうち、調査区２北西半で検出したSX-1は、L字状に屈曲してそのまま調査区外へと伸び、古墳の周濠ではないかと想定しています。その幅は約1.8～2.8m、深さは約48～64㎝を測り、上層に黄褐色～黒褐色シルト土層と褐色砂質土層、下層には褐色礫層が堆積しています。ここからは、古墳時代後期の土師器壺や須恵器の広口壺・高杯・杯身・杯蓋の他、扁平片刃石斧（へんぺいかたばせきふ）、打製石鏃（だせいせきぞく）、敲石（たたきいし）も出土しました。

土坑のうち、SX-1の東側で検出したSK-8は、約1.6×2.0mの楕円形で、深さは約60㎝を測ります。弥生時代中期の高杯や擬凹線文（ぎおうせんもん）の施された壺が出土しました。

次頁に写真を掲載しているSK-13は北西端から調査区外へと広がりを見せる土坑で、周濠を切り込む形で検出されました。大きさは約1.6×2.2m、深さは約25㎝を測ります。土師器の甕や皿、須恵器壺、土師質甑（こしき）など奈良時代に時期を比定できる土器が出土しています。

▲調査区遺構平面図

当調査地近くに所在する焔魔堂遺跡や経田遺跡、古高遺跡、東辻戸遺跡などからは弥生時代後期～古墳時代前期にかけての方形周溝墓や前方後方型周溝墓が多数検出されているほか、古墳時代中期～後期の方墳も数基確認されています。5世紀後半から6世紀にかけて播磨田東遺跡などでもみられるように数基以上で一単位を成す古墳群の形成が活発化するため、こうした古墳が他にも存在する可能性をうかがうことができます。

調査の結果から、今回の調査地一帯は、弥生時代中期から奈良時代にかけての幅広い期間、集落や墓域として土地利用されてきたことがわかりました。古墳と考えられるSX-1については、その全容を把握するには至りませんでしたが、今後の調査に期待することとします。（堀田）

▲　第２調査区土坑検出風景

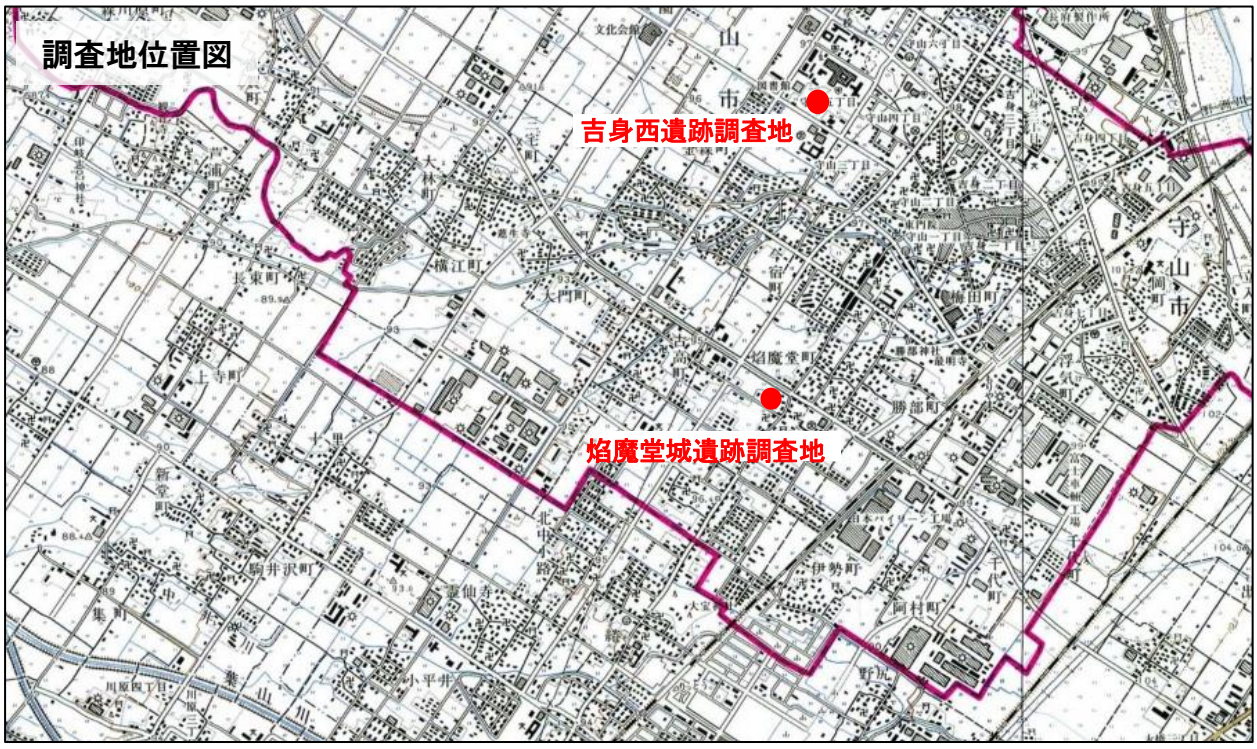
▲　第２調査区検出風景

吉身西遺跡 第 128 次調査

市立図書館の南側にあたる守山五丁目字下岩賀地先において、６月22日より発掘調査を開始しています。今回は宅地造成に伴う調査で、道路予定地の約550㎡が対象です。調査開始以降、雨天が続いたため、調査ははかどりませんでしたが、2調査区のうち第1調査区の作業が終了し、現在、第2調査区の調査に着手しています。

第1調査区では、方形周溝墓１基、溝６、土坑１基と14のピットを検出しました。方形周溝墓は周溝屈曲部を検出していて、周溝は幅2.0～2.5m、深さ約70㎝を測り、コーナー部（屈曲部）はやや浅くなっています。台状部の規模はおおよそ８mと推測でき、壺や甕などの出土遺物から弥生時代後期の遺構と考えられます。また、6条の溝のうち４条は東西方向に流れ、灰色系の砂質粘土の埋土から土師器が出土しており、平安時代の溝と思われます。

第2調査区の調査は8月中旬頃までを予定しており、次号で報告いたします。（畑本）



トピックス topics トピックス topics トピックス topics トピックス topics

「発掘調査写真が語る守山、半世紀の移り変わり」準備中です！その２

工事前の風景や周辺の様子が映り込んだ発掘調査の記録写真によって、昭和、平成の守山を回顧するという展示会の準備をしています。

その中から乙貞前号では、梅田町のグリーンロード周辺の移り変わりを吉身北遺跡の調査写真で紹介しました。今回は市民ホールや立命館守山高校周辺の移り変わりを中島遺跡の、吉身6丁目界隈の変貌ぶりを益須寺遺跡の調査写真で紹介いたします。

▲ 市民ホール建設前の調査風景（36年前）

▲ 平安女学院大学建設前の調査風景（23年前）

▲ 現在の風景

市民ホール・立命館守山高校辺り

現在、市民ホールや立命館守山高校が建っているところは、昭和50年代まで連綿と水田が広がっていました。写真上段は市民ホール建設前の調査風景です。背景には、市民体育館などが写っています。市民ホールは昭和61年に開館、その南隣の立命館守山高校は、もとは平安女学院大学のキャンパスで、平成10年に建設に先立ち発掘調査しました。中段はその時の写真です。

その後、JR守山駅に伸びる都市計画道路ができ、その沿道にはまたたく間に宅地となり店舗や住宅が建ち並びました。ほんの10数年前のことです。

▲ 岡、立入町の風景（30年前）

▲ 吉身６丁目スイミングスクール建設前の風景

▲ 立入が丘幼稚園建設前の風景（29年前）

益須寺遺跡とその周辺

吉身6丁目界隈には益須寺遺跡が分布しています。益須寺とは、『日本書紀』にもその名が見える白鳳寺院で、この辺りに建立されていたことから益須寺遺跡として周知されています。

遺跡周辺は駅に程近い地理にありながら、昭和の終わり頃までは田畑が広がり、のどかさが漂っていました。それは、およそ2百メートル北側を中山道が東西に伸び、集落が街道沿いに発達したからだと考えられます。

しかし、昭和30年代の高度経済成長を背景に、レインボーロードに連動する駅前グリーンロードの拡幅工事など、インフラが整ったこの地域に宅地開発の目が向けられるようになりました。その結果、次第に宅地開発され、駅周辺から途切れることのない市街地となりました。

平成２年に撮影された岡～立入町の遠景写真（上段）と昭和62年の吉身６丁目スイミングスクール建設に先立つ調査の写真（中段）、そして平成　３年の立入が丘幼稚園の建設前の調査写真を掲載しています。

令和２年度歴史入門講座

「 歴史の中の文化財～原始から戦国まで そして未来の人々へつなぐ～ 」

第１講、第２講を開催しました！

令和2年度歴史入門講座第1講を６月20日(土)に、続く第2講を７月18日(土)に開催しました。

第１講のテーマは「琵琶湖と縄文人～守山周辺の湖岸・湖底遺跡からわかること～」、講師は（公財)滋賀県文化財保護協会の中村健二（なかむらけんじ）さんで、最新の発掘調査成果から守山周辺の縄文人の営みについて講演していただきました。

そして、第２講の講師は滋賀県文化スポーツ部文化財保護課の井上 優（いのうえ まさる）さんで、「近江に伝わる光秀伝説～多賀出生説・藤田伝五～」をテーマに、現在、脚光を浴びる武将・明智光秀の出生が多賀であった可能性、そして、その家臣藤田伝五と守山との関りをわかりやすく講演していただきました。

講演いただきました中村さん、井上さん、大変ありがとうございました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドラインに則り、受講者を最大３０名に制限して開催しました。

そのため、大変多くの皆様に受講していただけませんでした。お詫び申し上げます。

▲ 第１講開催風景

▲ 第２講開催風景

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』や Face Book からもご覧いただけます！

←歴史のまち守山はコチラから
http://moriyama-bunkazai.org

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶
https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks

【後記】かつて、当センターの調査員としての職歴をもつ歴史作家の今村翔吾さん、その作品「じんかん」で第163回直木賞にノミネートされました。旧知のスタッフも期待に胸が膨らみましたが、栄えある受賞は叶いませんでした。さて、この作品、戦国武将の松永久秀にまつわる小説です。この人物は戦国三大梟雄（さんだいきょうゆう）として知られています。つまり、戦国時代の英雄ではなく悪人の極みというわけです。しかし、松永久秀の人となりについては近年、再評価の動きが高まっていて、「じんかん」もそのような潮流にあり、忠義心溢れる武将として描かれています。

この本を読んで、思い出したことがあります。それは発掘調査を志した頃に、「固定観念にとらわれずに事象を直視し冷静な結論を導き出せ、調査報告書をも疑ってかかって読め」と教えられたことです。遺跡を発掘し、検出した遺構、遺物をステレオタイプに見るようでは、遺跡が発している大事なメッセージを受け止められないじゃないか？　一冊の歴史小説を読んで、小説の本旨はさておき、読者は様々な、思いがけない感想をもつ、読書の良いとことかもしれんせんね。　（馬耳東風）